

都道府県番号	44
都道府県名	大分県

( )

・ 学校名及び規模

蒲江町立蒲江小学校（学力向上フロンティアスクール）										
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数	
学級数	1	1	1	1	1	1	0	6	13	
児童数	23	26	17	24	25	20	0	135		

・ 実践研究の概要（主題（テーマ）及び設定の趣旨）

<p>・ 主題（テーマ）  確かな学力が身につく指導のあり方をめざして</p> <p>・ テーマ設定の趣旨  2年間の試行を経て、「総合的な学習の時間」は、子どもたちが主体的に課題を持ち、自ら解決していこうとする能力や学び方を身につけるなど「生きる力」を育む学習として本年度から本格実施されることになった。これまで本校では、「地域に学び自分を磨く総合的な学習のあり方」を研究主題として、「生きる力」の育成をめざし実践研究を進めてきた。子どもたちは、地域の様々な人たちや文化とのふれ合いを通して課題をつかみ、生き生きと活動に取り組むことができた。また、職員の体験研修や先進校視察、情報機器の活用など総合的な学習に関わる取り組みは広がりを見せたしかし、その中で、「総合的な学習の時間」を支える教科学習の基礎基本的な学力の充実の必要性が課題として残された。</p> <p>本年度より実施される新学習指導要領では、基礎基本の習得が必須となった。これまでも、子どもたちに基礎基本の学力をつけることは、大きな課題であったが、今回から学習指導要領の目標そのものが基礎基本の内容と位置づけられ、目標準拠の評価も求められている。また、基礎基本の力とは、子どもたちが「学ぼうとする力」（興味・関心・意欲・態度）「学ぶ力」（思考力・判断力・表現力）「学んで得た力」（知識・理解・技能）の総体であると同時に、その後の学習に活用しえるものであるととらえられている。すなわち、「生きる力」をめざして、子どもたちに基礎基本の学力をつけることが今回の学習指導要領改訂の主旨であるといえよう。また、この基礎基本の徹底が「確かな学力」であることとらえることもできる。子どもたちの「生きる力」を育むためには、自らが課題を見つけ主体的に解決する経験を通し、学びの方法や学ぶことの価値を見出すことが必要である。しかし、そこに至るまでの、子どもたちの学習活動や考えるための基礎基本となる確かな学力の保障も必要となってくる。</p> <p>そこで本年度は、「生きる力」を育むための「基礎基本の学力」に目を向け、その内容を具体化し、指導法を工夫することにより「確かな学力」を子どもたちに身につけさせたいと考え上記主題を設定した。</p>
--

実践研究の内容について

( ) 研究体制の工夫

算数科において学習を進める上で、最低限の技能を基礎にとらえ、その習熟をはかることにより児童の学習能力の向上を図るとともに、個に応じた課題を見つけ指導に生かすこととした。また、T Tを導入し、より確かな習熟度の評価を行いながら一人ひとりに対応できる指導体制を探ることとした。

( ) 実践研究の内容

基礎技能の向上

- ・ 日常的な繰り返しによる

(百マス計算～算数科 漢字 音読 読解 暗唱～国語科)

生活力学習力の向上

補充的な学習

- ・ 系統性のある学習プリントの開発(蒲小プリント)
- ・ 蒲小タイムでの個に応じた指導(学級裁量・T Tの活用)

指導方法・指導体制を工夫した検証授業

- ・ 外部人材登用
- ・ 情報機器の活用
- ・ 課題別グループ学習
- ・ 学習のパターン化
- ・ 習熟度に応じた課題プリント
- ・ 個に応じた評価法の工夫
- ・ T Tの活用

( ) 成果と課題

成果

- ・ 学習のパターン化によってノートの取り方が上手になった。
- ・ T Tの役割分担による評価をもとに一人ひとりの習熟状況や考え方の把握がしやすくなり個別指導に時間がとれるようになった。
- ・ 学習意欲が感じられ、授業に対する姿勢がよくなった。
- ・ 百マス計算により計算の技能の向上が見られた。

課題

- ・ 百マス計算の実施時間の確保と実施方法の改善。
- ・ より有効的な個に応じた評価の仕方はどうあればよいか。
- ・ 蒲小プリントをより効果的に活用するにはどうすればよいか。
- ・ 生活力学習力の向上の取り組みの実践化。
- ・ 授業仮説を設定し、研究の焦点化を行う必要がある。

( ) 成果の普及方策

地域学校間連絡会にて報告

( ) その他